

## 今週のメニュー

## ■トピックス

◇第二回九州ホームショーに出展しました！

## ■随想

◇古代ヤマトの遠景〔番外〕(27)

木下 清隆

## ■編集後記

## ■トピックス

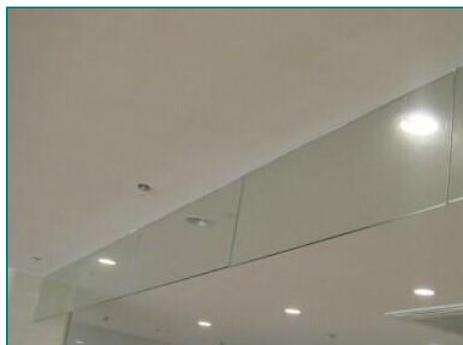
◇第二回九州ホームショーに出展しました！

7/5、6 福岡のマリンメッセ福岡で行われた九州ホームショーに、昨年に続き出展いたしました。この展示会は、昨年度から行われており、セミナー等でお世話になっている日本住宅新聞社が購読者などを対象にコマを提供している展示会です。いただいたコマは、1コマではありましたが、YKK AP(株)の温熱体感機、樹脂窓カットサンプルと文化シャッター(株)の止めピタ、防煙垂れ壁を優れた塩ビ製品として展示いたしました。

YKK AP(株)が展示した体感機は、昨年度も展示させていただきましたが、九州では知名度が低い樹脂窓の枠やガラスの違いによる、温度や結露状況の違いなどを体験できるもので、実際に手で触れられ、樹脂窓の威力を肌で感じていただきました。樹脂窓を初めてみられプラスチックでサッシなどありえないと思っていた方々も複雑な構造に驚愕されていました。



VEC ブース



防煙垂れ壁の一例

文化シャッター(株)の展示した止めピタについては、水より比重の重い塩ビをうまく利用して水圧で伸び開口部の隙間を満遍なく塞ぎ殆ど水を内部に漏らさない実用性に関心される来場者が多数おられました。また住宅では見慣れない防煙垂れ壁ですが、熊本での震災を経験されておられる方も来場されショッピングセンターや地下鉄などの公共施設で突然の地震に頭上からガラスが降ってきたときの怖さなどを思い浮かべながら、説明員の樹脂製の安全性を説明する言葉に聞き入る方々も数多くおられました。

当日は、梅雨に入ったにも関わらず二日間で約 3,500 名の方が来場され、当ブースにも約 200 名の方が来場され実用的な塩ビ製品の話に熱心に聞きいられておられました。

コマを提供していただいた日本住宅新聞社に感謝すると同時に、協力していただいた YKK AP 社、文化シャッター社に感謝いたします。

## ■ 随想

### ◇古代ヤマトの遠景〔番外〕（27）

木下 清隆

<前回とのつながり>

度会氏の大若子命キャンペーンは、梅宮大社の祭神として大若子命が酒解神と共に祀られるという成果をもたらした。この梅宮大社は、うめのみやたいしや 県犬養三千代が橘宿禰の氏姓を元明天皇に賜ったことから、祖神を祀るために創建した氏社である。今回は、この神社の由緒を更に深く探求することにするが、その最初は酒解神の素性調べである。

次に酒解神とは誰なのかという問題が出てくる。この神は記紀に全く登場しない神である。その意味では天日別命に良く似ている。この命については伊勢氏が新しく創作した神と本考では推定しているが、これと同様なことを県犬養三千代が行った可能性はありえよう。そうだとすれば、「酒解神」と名を変えられた本来の神が存在していることになる。その神は誰なのだろうか。考えられるのは三輪山の神である。その理由は、この神と酒とは深い関係があり、これに関する物語が崇神紀八年の条に出てくるからである。その内容は、以下のようになっている。



大神神社 摂社 狭井神社

「八年夏四月十六日、高橋邑むらの活日いくひを、大物主神にたてまつる酒を掌る人とした。冬十二月二十日、天皇は大田田根子に大物主神を祀らせた。この日、活日みきは神酒を天皇にたてまつり、歌を詠んでいうのに、

“この神酒は私の造った神酒ではありません。倭の国をお造りになった大物主神が醸成された神酒です。幾世までもひさしく栄えよ。栄えよ。”

このように歌って神の宮で宴を催された。宴が終わり、諸大夫が歌った。

“一晩中酒宴をして三輪の社殿の朝開く戸口を通して帰って行こう。”

天皇も歌っていわれた。

“一晩中酒宴をして三輪の社殿の朝の戸をおし開こう。三輪の戸を。”

そして神の宮の戸を開いてお出ましになった。この大田田根子は今の三輪君らの祖先である。」（訳宇治谷孟）

以上の物語の内容は、高橋邑の活日を、三輪山の神である大物主神の掌酒にしたこと、この活日が酒を造り、この酒は自分が作ったのではなく、大物主神が造ったものだと賛美したこと、この酒を天皇と臣下の者達で朝まで飲み明かしたこと、などが物語られている。これは三輪山の神が天皇と臣下たちに



左：狭井神社 霊泉場（自由に水が汲める）  
右：酒造りに利用された霊泉の案内

酒を振舞い、或いは酒を解放したことを意味している。このような故事から酒を人々に解き放った神との意味で「酒解神」が誕生したのではなかろうか。即ち、

### 三輪山の神＝大物主神＝酒解神

の関係があるとの想定である。ではその時期はいつ頃と見るべきであろうか。先ず考えなければならないことは、梅宮大社がいつ創建されたのかである。社伝にはその時期は明らかにされていない。梅宮大社が橘氏の氏神を祀る神社である以上、県犬養三千代が橘宿禰を元明天皇から賜った七〇八年以降であることは確実である。更に、彼女の死が七三三年であることから、それ以前でなければならない。そこで酒解神誕生の時期を考えると、この神の由来が先に説明したように崇神紀に由来とするなら、『日本書紀』完成後でなければならないことになる。ところが彼女の夫不比等は書紀編纂事業の実務上の総責任者である。このことから彼女が書紀完成前にある程度その内容を知っていたとしてもおかしくはない。このように考えると酒解神の誕生は、梅宮大社創建当時にまで遡ることが可能となってくる。

このように酒解神の誕生と梅宮大社の創建時期とが同時だったとすれば、なぜ彼女は三輪山の神の名を酒解神に変えて祭祀したのかが問題となってくる。彼女が梅宮大社を創建したとき、その祭神は当然彼等の祖神にするのが自然である。『新撰姓氏録』によれば彼等の祖神は神魂命かもすとなっている。従って、創建当初の祭神は神魂命でなければならないことになる。ところが、この神魂命は、後で詳しく論じるが出雲の祖神と見られる神で、先に度会氏のところで論じたように、度会氏は「出雲隠し」のためにこの神を数百年間隠し続けた。彼等は立場上、表に出せない事情があったにせよ、当時この神は隠すべき対象であったということである。

このように考えると、天皇へ仕える身である美千代が、神魂命を祭神とすることなど、とても許される状況になかったことは容易に想像がつく。そこで彼女がとった行動は、三輪山の神を祭神とすることだったと考えられる。当然大物主神といった名称ではなく、それと判らないようにカムフラージュした「酒解神」である。大物主神については後で論じるが、この神も出雲系だからベールに包んだのである。

このようにして、酒解神は梅宮大社の祭神となった。しかし、この神と大山祇神とを直接結び付けるものは何も無い。なぜ酒解神は大山祇神であると神社側が主張するようになったのかは判らないが、恐らく次のようなことが考えられよう。

三輪山の神を酒解神と名を変じて祭祀を始めれば、当然、人はこの神の素性を質すはずである。その時、「実は三輪山の神です」とは立場上答えられなかったとみられる。三輪山に出雲の神が祀られているということは、当時の人々には良く知られていたことであり、その時代の空気として、出雲に関わりを持つこと自体が、不比等の妻の立場では許されなかったはずである。そこで選ばれたのが大山祇神だったということであろう。大山祇神は同じ出雲系の神とされているが、マイナーな神であることから「出雲隠し」の対象とはなっていないとみられる。梅宮大社にとって、大山祇神＝酒解神の関係導入は、酒解神を祭神とした時期と殆ど同時だったと考えられる。それ以降、神社側は冒頭に紹介したような説明をしてきたということであろう。

(つづく)

この「古代ヤマトの遠景」に対し、ご意見・ご感想を頂ければ幸いに存じます。>> [\(筆者\)](#)  
「古代ヤマトの遠景」: [バックナンバー](#)

## ■ 編集後記

子供たちはもう夏休み。プールの話題で子供たちが一年に一度は実施している着衣水泳。万が一川や海に服を着たまま落下することを想定し、いつもの服装でプールに入り、水を吸って重くなり泳ぐことがかなり困難になることを体験するそうです。

一度でも体験しておくだけでパニックにならないんだよと子供に力説されますが、なかなか体験する機会がないな—と思いながら、毎週水着で泳いでいます。(リマル)

## ■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <http://www.vec.gr.jp> ■ E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)